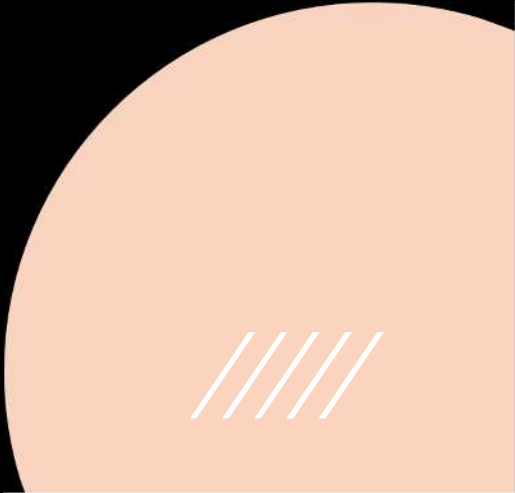


“ちの家”の
はなし

すわ大昔フォーラム
第40回



本日のテーマ

- “ちの家”は出雲族なのか、土着の民なのか
- 武家としての千野家と、神家としての茅野家
- 山梨、長野、埼玉、群馬に分散した“ちの家”
- 長年の研究から疑問に思っていることを、皆さんとご一緒に。

茅野と呼ばれるわけ

- 茅野はかつて千の郷と呼ばれ、使神御頭之日記(天文9年)の条に「内鼎介千野とみえる」とある。では千野で良いのでは、しかしさらに古くは「智弩神」があり、それが訛り“ちの”となり、茅の茂った野原と重なり茅野と称されるようになったと考えられる。
- また宮川の西茅野地区を享保18年の諏訪藩主手元絵図では茅の村と記載されている。
- 現在でも何故 茅野と言われるようになったかは結論を得ない。

“ちの家”は出雲族なのか、土着の民なのか

- 西茅野地域には ちの家の大切な物がある
- 諏訪大社以前よりミシャグジの祭祀を行っていた
- 崖崩れで失った大門寺跡が ちの家の埋葬地と言われていた
- 八井耳命が始祖神と記されている
- 前宮から西茅野に掛けては御船祭の伝承が見られない
- 不自然な古系図

西茅野地域には ちの家の大切な物がある



北斗さまと言われているが、第三居住地の古屋敷の一角にある。一説には北斗子之神すなわち大国主命とあるがそれ以前はミシャグチ信仰の象徴とされていたようである。



西茅野行屋の駒形城に通じる道。
一説には茅野氏が建立した茅野光弘の供養塔と言われる。また墓石群は鎌倉、室町期の茅野氏の墓石である。



- 大門寺遠景。
- 平安期以前よりこの地に居住していた茅野氏の埋葬地と言われていたが山崩れにより崩壊埋没している。
- 研究者はこの地には寺院など無いという。

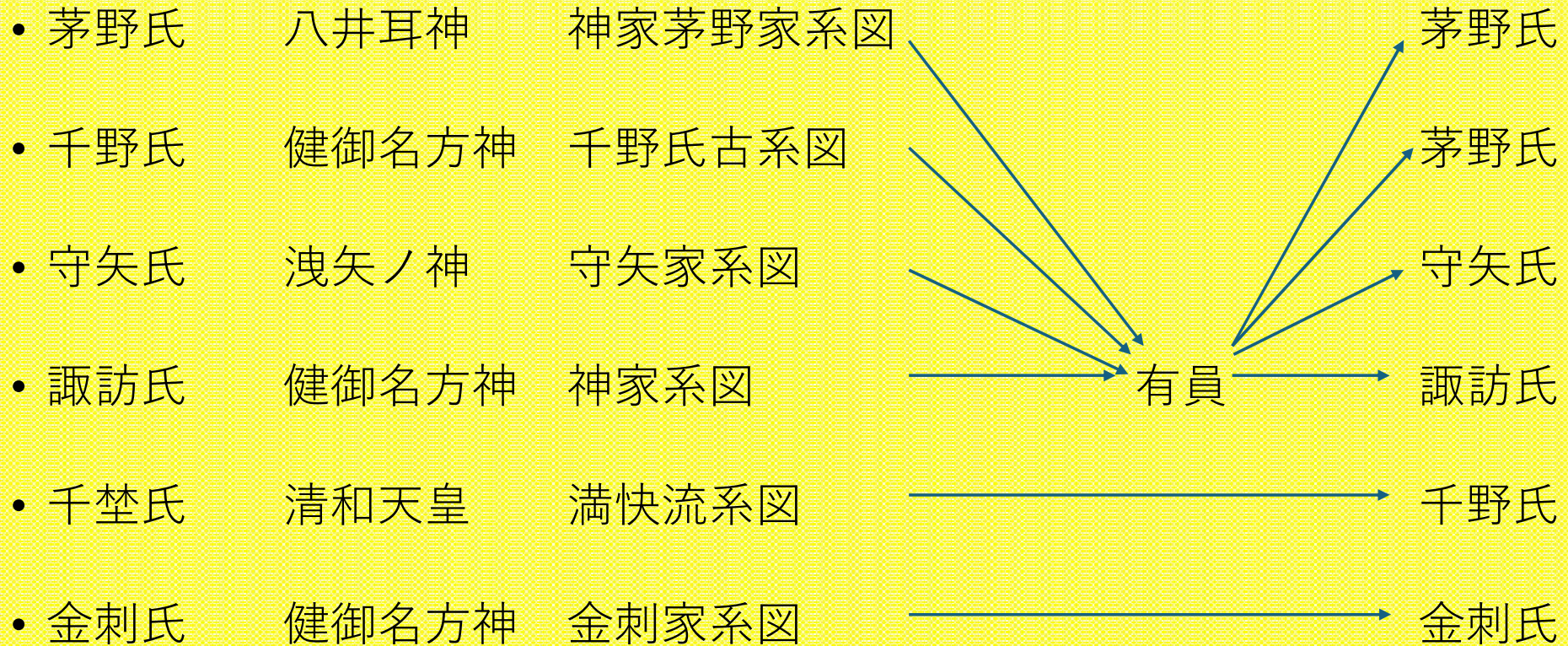


通称、亀石神社。
諏訪七石の一つである亀石が
あったが文明14年の大満水で
流失している。
亀石は古代より奇石信仰の御
神体とされていた。
それを守っていたのが西茅野
の茅野氏であった。

御船祭

- 有名な御船祭 鹿島神宮 香取神宮 穂高神社 諏訪大社下社
- 熊野速玉大社などがあり、これらに共通しているのが天津神 海人族 安曇族などである。
- 諏訪大社下社の場合は健甕名方神の母神 沼川姫と大国主命の物語の影響を受けている。(高志国大乱)
- 大国主命が沼川姫を求め敦賀から能登を回り糸魚川まで船で来たこと、また諏訪までの足跡の中に船のような輿に乗って移動したのでそれらの地域にお舟祭が残っている。
- ちなみに諏訪大社の翡翠守りは沼川姫(ひすいの女王)の関連

不自然な系図



ちの氏は土着民と考えて良いのではないだろうか

- 『諏訪信重解状』宝治3年(1249年)にある明神入諏には、出雲神の健御名方命が天竜川の北岸に陣取り、対して洩矢神の一族は南岸に陣取り、それぞれ藤の鎰と鉄の鎰をもって引き合ったとある。
- 洩矢神の軍勢は高部、西茅野等の一族とされる。
- 敗軍となった洩矢神は勝者の健御名方命に従う。
- 茅野氏は諏訪大社が創建されるまでの間、洩矢神、ミシヤグチ神に仕える神官となる。
- これらのことから土着の民と考えてはどうだろうか。

武家としての千野家と、神家としての茅野家

- 「平家物語」に初めて茅野の名前が登場する
- 「太平記」に名は記されていないが茅野家系図に鎌倉打死にとある
- 武士としての千野家を名乗ったのはいつか
- 室町時代の千野家は強かった
- 家老としての千野家の手腕の見せ所
- 力を増す毎に藩内で基盤を確立する。分家政策
- 新政府軍に助力する千野家
- 御一新で離散する千野家
- 神官茅野家は細く長く生き続けている

「平家物語」に初めて茅野の名が登場する

「延慶本平家物語」 倶利伽羅合戦の段

夜の暁に本堂に馳付て、願書を八幡に納めつつ、すなわち打立けるに、茅野太郎(外の者省略)ぞ争いける。

樋口被斬(ひぐちのきられ)の段

かく申す者は信濃国諏訪の上宮の住人茅野太夫光家の子、茅野太郎光広と申す者、必ず一条次郎殿の手の方を尋ねるのではないが弟の茅野七郎がそこにおるからじゃ、子供二人信濃国に置いて参ったが、父が戦場で如何なる死に様をしたか案じておる。それ故、弟の七郎の前にて討死して、子供達に父の最後を確かに聞かせんと存する次第。敵を嫌うのではないぞ。

「太平記」には名が記されていないが茅野家系図には鎌倉討死とある。

元弘3年1333年年 茅野左衛門 関東小手指ヶ原の合戦にて討死。
子供三人鎌倉にて殉死。

同年 茅野蔵人友光が東勝寺にて北条に殉ずる。

「承久記」承久3年1221年尾張の国にして官軍合戦の事 その九
「板東より取り敢へず上りたり、東国の住人河上の左近、茅野弥六」とぞ答えける。「さては一家なれば茅野弥六おば大明神に許し奉る。左近尉をば申し請くる。」

武士として千野を名乗ったのはいつか

- 治暦元年1065年 後三年の役の功績により茅野家に家紋「三ツ盛亀甲花菱」を得る。

天文17年1548年 上田原の合戦で板垣信方と供に戦う茅野政陸、時節は討死。末弟孫九郎靱負光忠(信氏)は千野と改姓し千野家の祖となる。

第四次川中島合戦には諏訪神軍として茅野、千野氏供に出陣している。

高島藩成立時に政祭分離で武士千野氏、神官茅野氏となる。

室町(戦国)時代の千野氏は強かった。

主に諏訪氏と武田信虎の争いとなるが、寛正6年1465年に武田信昌が諏訪惣領政満の援護を受けて夕狩沢合戦(山梨市)で大勝し山梨郡西保下まで奪ってしまう。(旧東山梨郡牧丘町 塩山北方千野町、牧丘町千野々宮)

この戦いで千野氏は塩山周辺まで一族が居住するが、後に武田晴信に仕え、一部の千野氏は武田の軍勢として諏訪を攻める手勢となる。

天文4年1535年、堺川北岸で信虎と和議を結び国堺橋を国境界とする。

諏訪氏滅亡の後、甲斐の千野氏は各所で帰農し、のち名主となる者が多かった。(長坂氏の配下の者は茅野と改姓し諏訪に戻る)

川中島合戦にも逸見氏、長坂氏などの手勢として戦う。

一蓮寺過去帳に戦没した千野氏の名が見られる。

家老としての千野家の手腕の見せ所

- | | |
|-------|--|
| 初代 頼房 | 関ヶ原合戦・大阪の役に出陣 関東移封
奈良梨 神戸備後昌勝
菩提寺江音寺建立 |
| 二代 頼良 | 徳川秀忠葬儀の司会進行役
茅野市湖東中村に正光寺開基 |
| 七代 貞亮 | 二の丸騒動の立役者 御櫓脇家創設 |

力を増す毎に藩内で基盤を確立する。分家政策

- 二の丸騒動の後、二の丸諏訪家を廃止して御櫓脇千野家を分家
- 城下を整備して居住地を定める 慶応4年城下図参照

寛政年間(二の丸騒動後)

三之丸家老	千野源太
御櫓脇家老	千野兵庫
奉行・用人	千野十郎兵衛方英
町奉行	千野新左衛門房長
普請兼勘定奉行	千野与一右衛門良戴
西脇代官	千野丹太夫

新政府軍に助力する千野家

- 元治元年1864年 老中諏訪忠誠の時は幕命で天狗党と和田嶺で戦った。
- 4年後の慶応4年には新政府軍として北越、会津などに進軍している。何故？
- 常に十郎兵衛茂左衛門が軍監として従軍している。
- いち早く新政府軍に恭順している。何故？

御一新で離散する千野家

- 明治維新後、廃藩置県政策により諏訪氏と供に東京へ移住する。
- 但し移住できたのは藩に於いて高位にあった者だけで、禄の少ない武士は縁戚を頼り諏訪から離れていった。
- 一部は千野から茅野と改姓し諏訪に残った一類もある。

神官茅野家は細く長く生き続けている

- 政祭分離以降、大祝に仕える神職として主に雅楽担当をしつつ
- 諏訪大社上社の摂社末社36社を受け持っていた。
- 高島藩と大祝の橋渡し役という重要な役割も持っていた。
- 廃藩、神仏分離、戦後の公職追放以降も神官として諏訪大社上社摂社末社の17社を受け持っている。

ちの家の家紋

亀甲紋を表紋(男紋)、梶の葉を裏紋(女紋)としているが、地域によっては逆にしているところもある。

また表紋、裏紋は平時は表、冠婚葬祭には裏と使い分けているケースもある。



三盛亀甲花菱



丸に立ち梶の葉

諏訪地域・山梨の千野・茅野家は亀甲紋を使用。埼玉・群馬・長野市は梶の葉が多い。

山梨、長野、埼玉、群馬に
分散した“ちの家”

本講座で何故“ちの家”と平仮名で
表したのでしょうか

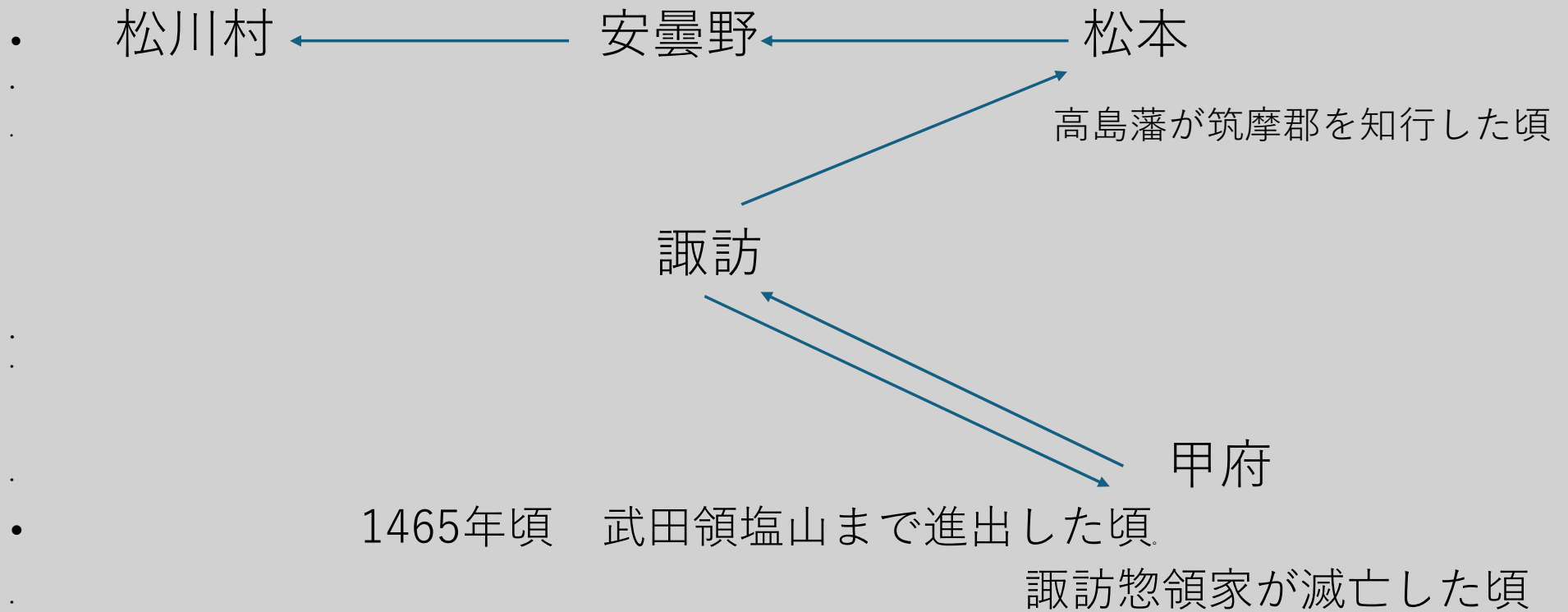
ちの家は別
字同音の五
家がある

- 成立順
- 茅野家 平安時代に記載書物あり
- 血野家 鎌倉幕府滅亡の頃
- 千野家 武田家が諏訪惣領家を滅ぼし
た後
- 知野家 第三次川中島の戦いの後
- 千埜家 第四次川中島の戦いの後

茅野家は西茅野発祥の土着民

- 全てのちの家の総本家となる
- ミシャグチを祭祀の対象としていた一族
- 外敵侵入の際に守矢家と協力して対応する
- 敗戦後、金刺、諏訪の麾下で戦う神官として存続
- 「平家物語」に茅野光親親子の記述があるのが最古
- 政祭分離で式部外記太夫として諏訪氏に仕える
- 茅野家にも諏訪系と武田系がある

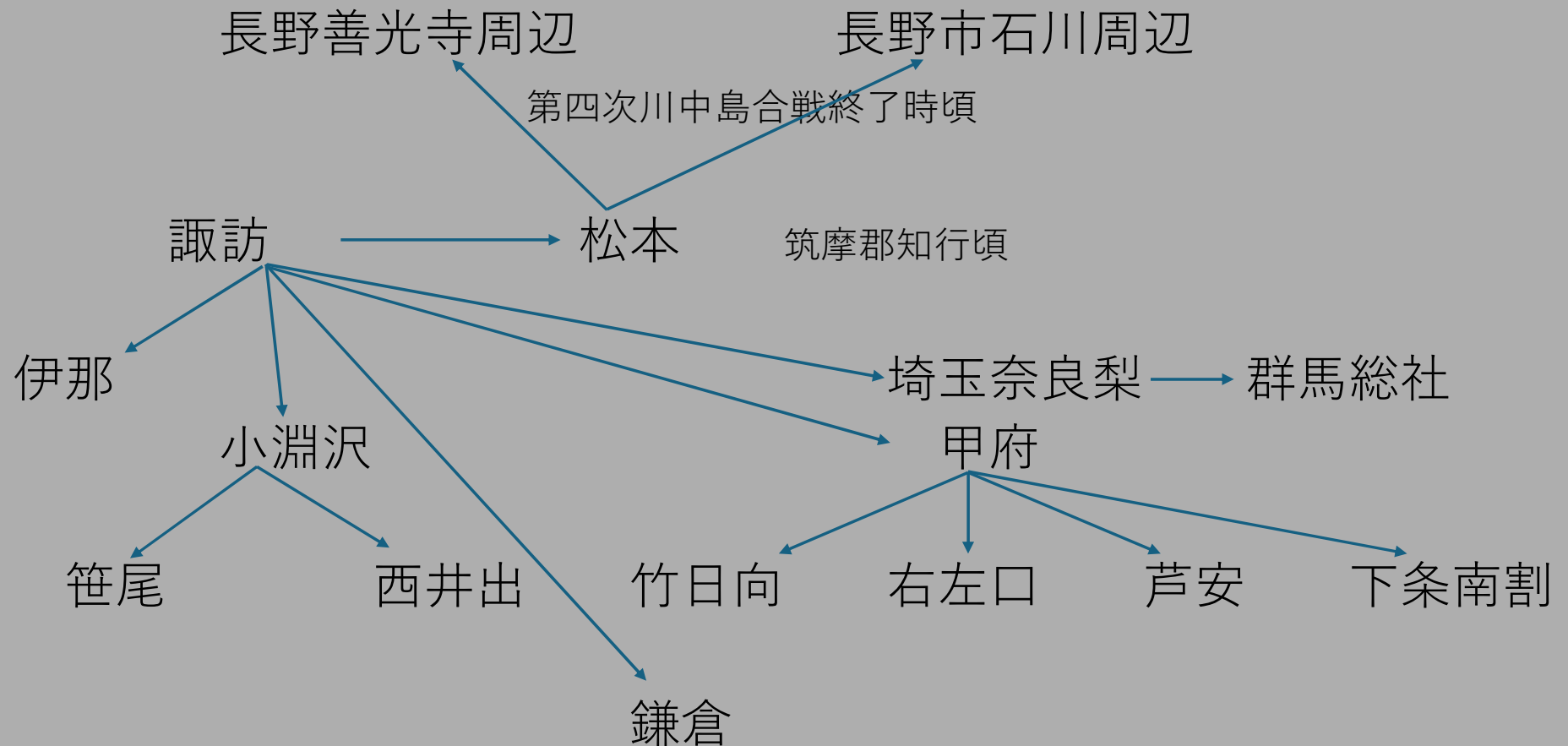
茅野家の足跡と現在の居住



千野家は茅野家から分家した武士系の家

- 主君から三盛亀甲の家紋と千野の名字を与えられた
- 鎌倉時代には鎌倉、埼玉西部
- 戦国時代前期には山梨塩山まで
- 戦国後期には長野新潟県境まで
- 江戸初期には埼玉、群馬前橋まで 一族が転戦、移封
- 江戸期は諏訪氏に仕え高島藩の重鎮となる

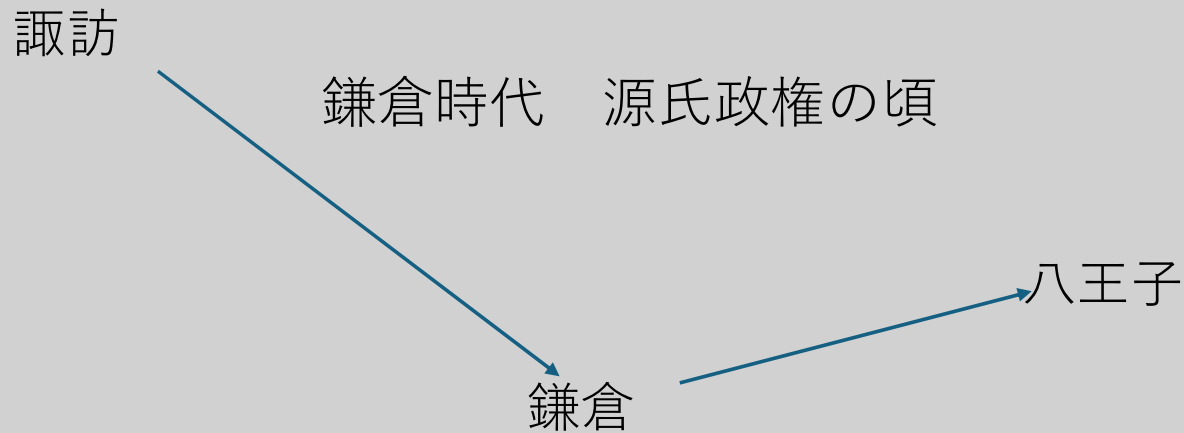
千野家の足跡と現在の居住



血野家は千野家から分かれた一族である

- 鎌倉時代に諏訪家の与力として鎌倉北条家に仕えていた
- 中先代の乱で鎌倉千野一族が討死、自刃する
- 一族の生き残り血縁者が回顧恨みを込め血野と改名する
- 江戸時代は名を伏せ明治期の戸籍制定時に血野と記す
- 現在は神奈川県に10家ほど存続する

血野家の足跡と現在

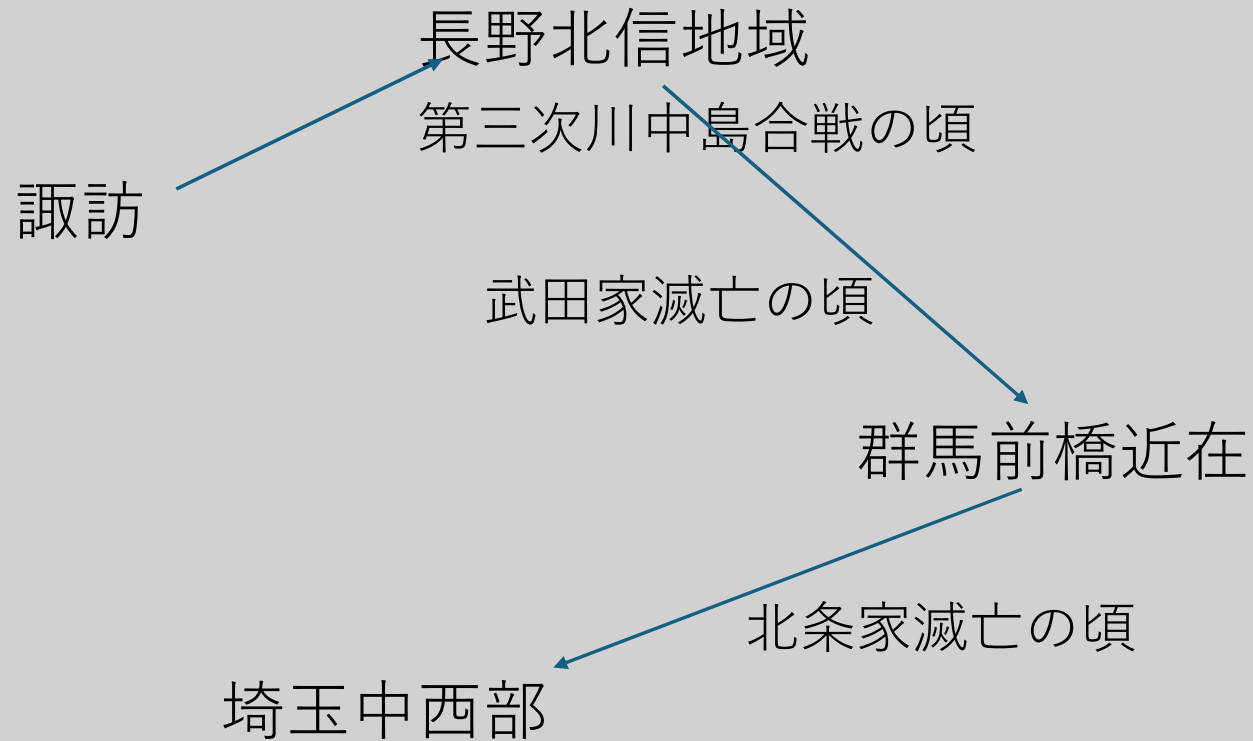


初め茅野氏として鎌倉へ赴くが、北条氏滅亡の折りに血野に改姓。
八王子へは茅野氏として赴くが、後に千野氏と改姓。現在は神奈川、大阪に在る。

知野家は千野家から分かれた一族である

- 初めは北信地域、新潟県境付近に移り住んだ後改名する
- 北国街道から南下し群馬前橋、埼玉西部へと移動する
- 諏訪家が奈良梨、総社へと移封の際には助力する

知野家足跡と現在



千埜家の足跡と現在

千埜家は千野家から分かれた一族である
第四次川中島合戦後、新潟中部白根に隠棲のち改姓する

諏訪



白根

長年の研究から疑問に思っていることを
皆さんとご一緒に。

有員とは誰か

本当に外部勢力と戦ったのか 鉄と藤の鎔での戦いの方法

大祝が有員以前よりある意味

何故、千野家は下克上をしなかったのか

千野家・茅野家の本流を書き記した家系図になります。
この家系図を充実させるにはこれからも多くの“ちの家”の方々に
出会う事が必要です。
完成することは決してありませんが、現在も面々と続いている
“ちの家”の皆様に、そして歴史愛好家の皆様に依り多くことを
知って頂くため努力をして行きます。
これからもご協力をよろしく御願い致します。
本日は有り難うございました。

石井裕一